



SAMPLE

【連載】1981年36号～1986年50号



著者プロフィール

1951年、群馬県生まれ。1969年に上京し、石井いさみのアシスタントとなる。1970年、「デラックス少年サンデー」の『消えた爆音』でデビュー。少女漫画誌で活躍の後、1978年、得意の青春スポーツ漫画の礎となる『ナイン』を『週刊少年サンデー』増刊号に連載。1982年に『タッチ』と少年ビッグコミック連載の『みゆき』で第28回小学館漫画賞(少年少女部門)受賞。現在『クロスゲーム』を『週刊少年サンデー』で連載中。

あだち充



①子供の頃から一緒だった3人。達也は和也のことを誰よりも理解していた。



②甲子園、そして南をめぐるラッパルの新田と地区大会決勝戦。試合結果、真っ向勝負で達也が敗れる。

南を甲子園に連れて行って…



③甲子園での試合を前に、ついに達也が告白。



■ストーリー紹介

上杉達也と和也は明青学園高等部に通う双子の兄弟。何事にもいいかげんな兄の達也に対して、弟の和也は勉強にもスポーツにも真面目に取り組む。

隣に住む幼なじみの朝倉南の「甲子園に連れて行って」という願いを叶えるため、和也は1年生ながら野球部のエースとして活躍し、地区大会決勝に進出。だが球場に向かう途中、交通事故で得らぬ人に。

そしてマウンドには、南の願いを叶えるという和也の夢を願いだ達也の姿が。最初はいいかげんだ達也だが、南の応援や周囲の支えで、次第にエースへ成長していく。

■熱血せず肩の力をどんどん抜いたら大ヒット作に!!

『ナイン』の少女漫画から、オリジナル作品『タッチ』で、『週刊少年サンデー』に復帰した。そこで、それまでありがちな熱血漫画とは違う、読者に押しつけないように、肩の力を抜いて描くことで漫画家として初めてのオビットを飛ばすことに成功。さらに自己流の描き方を教えてセリフにしないという『タッチ』ならではの手法を、『少年ビッグコミック』で連載したラブコメの傑作『みゆき』で確立した。伍えたい言葉を主人公たちに直接書かせるのではなく、微妙な表情や風景描写などでそのニュアンスを表現し見事に伝えてみせたのだ。

そしてそのテクニックにさらなる磨きがかかって描かれたのが『タッチ』であった。連載が始まるやいなや、今までの少年漫画になかった。その独特の表現に読者たちは引きつけられ、じっくりと何度も作品を読み、すっかりあだち充ワールドのとりこになっていったのである。

しかし週刊連載の少ないページ数で、微妙なニュアンスを伝えるのには並々ならぬ努力と試行錯誤があった。そんな苦労が読者からの大反響となり実を結んだのだ。そして1985年にテレビアニメがスタートすると共に、さらなる大ヒット漫画への道を突き進む。ヒロインの南はまさに国民的アイドルと呼ぶにふさわしいほどの人気ぶりであった。あだち充自身『タッチ』が世の中に認知されたのは、テレビアニメの成功が大きいと認め、セリフも少なくて聞か多い、アニメに詳しい漫画をしっかりと作ってくれた制作スタッフには今でも感謝しているそうである。





【連載】1973年32号～1983年19号



著者プロフィール

矢口高雄

1939年、秋田県生まれ。高校卒業後12年間勤めた銀行を退職し、30歳にして漫画家に転身する。1973年『釣りキチ三平』で釣りブーム。同年『幻の怪獣バチヘビ』でタッチノブームを巻き起こし、講談社出版文化賞児童まんが部門を受賞。1976年には、大自然を舞台に人間とクマの闘いを描いた『マツギ』により日本漫画家協会賞大賞を受賞している。



●三平から兄と慕われるほどの信頼を受ける鮎川魚神。人格者の魚神に釣りを教わることで、三平はのびのびと成長することができた。



●釣りを通じて人生を学ぶ三平は、釣り仲間との絆やライバルとの勝負を経て人間的にも成長していく。釣りはドラマである。



●三平は国内、国外を問わず、興味深い魚の情報を聞くことと喜々として出掛け、持ち前の機転と根性を武器に多種多彩な釣りに挑戦していく。時には、幻の巨大魚と命を懸けた死闘を演じることも……。

■ストーリー紹介

高名の釣半職人を祖父に持ち、三度の飯より釣りを愛する少年・三平三平。子供ゆえに釣りは浅いが、その腕前は名人も目を覚ますほどの才能を発揮する。釣り大会で出会った風采の釣り師・鮎川魚神から手ほどきを受け、見る見るうちに数々のテクニックを会得していった。

そうして三平は国内、国外を問わず、興味深い魚の情報を聞くことと喜々として出掛け、持ち前の機転と根性を武器に多種多彩な釣りに挑戦していく。時には、幻の巨大魚と命を懸けた死闘を演じることも……。

リアリティある釣り描写と雄大な遊び心がファンを魅了

『マガジン』に10年間連載され、ロケを代表する釣り漫画として呼び声高い『釣りキチ三平』。年齢層を問わず空前の釣りブーム巻き起こし、子供たちが憧れてルアー釣りを始めたのも本作の影響によるものが大きかった。本作に登場する釣りモノはヘラブナ、ニジマス、ムツゴロウといった繊細さから、ハワイに棲息するブルーマシナ(カジキ)とのビッグファイトまで、ジャンルにこだわらず幅が広い。さらに、ヒキの強さや魚の挙動などは玄人も満足するリアリティが詰め込まれ、読んでいるだけで釣りの醍醐味を肌で感じ取れる。それもそのはず、作者の矢口高雄自身が釣り名人であり、作中に登場する魚の大半を実際に釣り上げた、貴重な経験が最大限に投影しているのだ。

また、崖の間にロープを張って足場を製作したり、鷹狩り用の角笛を利用して魚を釣ったりと、奇想天外なアイデアが盛り込まれている点も見逃せない。生真面目だけでなく遊び心もあふれているからこそ、娯楽漫画として長く愛され続けたとも言える。連載終了後、矢口高雄は「三平を二度と描かない」と断言していたが、ファンからの熱烈な声援に心を動かされ、『釣りキチ三平 平版版』として再開。好評を博したテレビアニメ版は放送は1980年のこと。困難とされていた実写映像化も2009年3月公開の劇場版で実現した。

なお、主人公の三平は矢口高雄の出身地である秋田県横手市に、矢口高雄の子として実際に住民登録されている。それが法的に許されたことから、本作が与えた社会的反響がどれだけ大きいか分かるだろう。



いちばん大切なモノは釣ろうというファイトなんだ!!

●スポーツフィッシングの最高峰とされる、ブルーマシナ(クロカワカジキ)とのビッグファイトも体験。三平の情熱は世界をまたに駆けろ!

